



M.Takahashi

# THE CHUNICHI SPORTS SHO FALCON STAKES

## 第39回 中日スポーツ賞 ファルコンステークス (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着  
本 賞 41,000,000円 16,000,000円 10,000,000円 6,200,000円 4,100,000円  
付加賞 672,000円 192,000円 96,000円



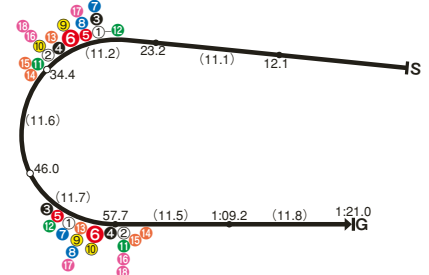
レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬  
負担重量 馬齢重量

2025.3.22 中京 晴・良 芝1400m (国際) 特招

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	ヤンキーパローズ	牡	3	57	岩田望来	1:21.0	10-8	34.3	482(+6)	6.3③	上村洋行(栗東)	108
2	⑩	モンドデラモーレ	牡	3	57	杉原誠人	クビ	4-3	34.8	482(-2)	9.6⑩	千葉直人(美浦)	107
3	⑭	リリーフィールド	牡	3	55	国分恭介	クビ	1-1	35.1	424(-6)	67.0⑭	小崎 恵(栗東)	103
4	④	バンジャタワ	牡	3	57	藤岡佑介	クビ	8-7	34.6	484(-2)	4.5①	橋口慎介(栗東)	107
5	⑫	ラバンチュール	牡	3	55	吉田 豊	1	18-16	34.1	456(-8)	43.7⑪	蛭名正義(美浦)	
6	⑦	シルバーレイン	牡	3	57	Cルメール	1	15-14	34.4	472(±0)	4.6②	萩原 清(美浦)	
7	⑨	アーリントンロウ	牡	3	57	西村淳也	1	2-2	35.5	512(+2)	16.7⑨	松下武士(栗東)	
8	⑧	チムグクル	牡	3	57	団野大成	½	10-10	34.9	426(+4)	54.9⑧	福永祐一(栗東)	
9	⑭	モジャーリオ	牡	3	57	斎藤 新	クビ	12-10	34.9	460(-4)	151.3⑨	斎藤 誠(美浦)	
10	⑪	トータルクラリティ	牡	3	57	北村友一	1¼	3-3	35.6	474(±0)	8.8④	池添 学(栗東)	
11	⑪	タイセイカレント	牡	3	57	丸山元気	½	15-14	35.0	474(-6)	14.6⑥	矢作芳人(栗東)	
12	⑤	モズナナスター	牡	3	55	丹内祐次	クビ	12-16	34.9	450(-2)	25.1⑫	矢作芳人(栗東)	
13	②	ライツユアアップ	牡	3	55	角田大和	クビ	4-3	35.8	430(-4)	237.5⑬	角田晃一(栗東)	
14	③	パニラビット	牡	3	57	吉田準人	ハナ	15-18	34.7	490(+2)	181.9⑬	武幸四郎(栗東)	
15	⑤	ニタモノドゥシ	牡	3	57	菅原明良	1	12-10	35.4	468(+4)	9.0⑤	高木 登(美浦)	
16	⑩	クラスペディア	牡	3	57	小崎綾也	1¼	8-10	35.6	492(-8)	12.2⑦	河崎宏樹(栗東)	
17	⑩	キャッスルレイク	牡	3	55	亀田温心	1¼	4-8	36.0	462(-6)	208.7⑯	松下武士(栗東)	
18	⑥	スマッシュアウト	牡	3	57	永島まなみ	大差	4-3	38.7	444(+6)	286.7⑯	栗田 徹(美浦)	

単勝⑥630円(3¼) 複勝⑥260円(3¼) ⑩320円(4¼) ⑭1,410円(13¼) 枠連③-⑧2,120円(10¼)  
馬連⑥-⑩2,450円(5¼) ワイド⑥-⑩990円(7¼) ⑥-⑩4,600円(54¼) ⑩-⑩5,940円(60¼)  
馬単⑥-⑩4,330円(8¼) 3連複⑥-⑩⑩36,940円(132¼) 3連単⑥-⑩⑩147,530円(568¼)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
34.4 - 46.0 - 57.7 46.6 - 35.0

### アラカルト

- ・岩田望来騎手はファルコンS初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算14勝目
- ・上村洋行調教師はファルコンS初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算7勝目
- ・エビファネア産駒はJRA重賞通算26勝目
- ・非当選馬 2頭(タガノアンファン、チューラワンサ)

# ヤンキーバローズ Yankee Barows

牡 青毛 2022.2.13生  
北海道浦河町 富田牧場生産  
馬主・猪熊広次氏 栗東・上村洋行厩舎  
馬名意味・アメリカ人+冠名

チャイナブリーズUSA系 F1-0

エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キプロプリミエールGB
キャンディバローズ 鹿毛 2013	ディープインパクト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	アフレタータ 栗毛 2000	タイキシャトルUSA チャイナブリーズUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4  
Halo M4×S5×M5 Hail to Reason S5×M5  
Seattle Slew S5×M5

## INTERVIEW

富田秀一代表(富田牧場)

### 目に焼きつくぐらいいい馬でした

もう少し早く重賞を勝ってくれるのではないかと期待していたのでやっと勝ってくれたという思いと、オーナーに少しでも恩返しできたことにほっとしています。母はあまり大きな馬ではないのでエピファネイアとの配合を決めましたが、生まれてきた本馬は目に焼きつくぐらいいい馬でした。母系から受け継いだスピードを生かして、さらなる活躍を期待しています。

Y.Maeda



函館・芝1200mの新馬戦を勝ち上がった後は函館2歳S4着、京王杯2歳S3着と重賞で上位に入着、暮れの1勝クラス特別は逃げ切った勝ち馬を捉えきれず2着に敗れたものの、3カ月の休養を挟んで臨んだ始動戦で鮮やかに巻き返した。マイル未満のJRA重賞を勝ったエピファネイア産駒は本馬が初めてだが、母キャンディバローズは2015年のファンタジーSの勝ち馬。母系の影響が強く出ている現状からどんな上昇曲線を描くのか、今後の成長が興味深い。

### 父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首14戦6勝(ジャパンC<sup>G1</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>、神戸新聞杯<sup>G2</sup>、ラジオNIKKEI杯2歳S<sup>G3</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着、皐月賞<sup>G1</sup>2着)、15年から供用、21~24年日本2歳リーディングサイヤー2位〔代表産駒〕**ダノンデサイル**(日本ダービー<sup>G1</sup>、アメリカジョッキークラブC<sup>G2</sup>、京成杯<sup>G3</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>3着)、**デアリングタクト**(桜花賞<sup>G1</sup>、オークス<sup>G1</sup>、秋華賞<sup>G1</sup>、ジャパンC<sup>G1</sup>3着)、**エプフォーリア**(皐月賞<sup>G1</sup>、天皇賞(秋)<sup>G1</sup>、有馬記念<sup>G1</sup>、日本ダービー<sup>G1</sup>2着)、**ステレンボッシュ**(桜花賞<sup>G1</sup>、オークス<sup>G1</sup>2着、阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup>2着)、**ブローザホーン**(宝塚記念<sup>G1</sup>、日経新春杯<sup>G2</sup>、天皇賞(春)<sup>G1</sup>2着)、**テンハッピーローズ**(ヴィクトリアマイル<sup>G1</sup>)、**サークルオブライフ**(阪神ジュベナイルフィリーズ<sup>G1</sup>)、**ビザンチンドリーム**(レッドシスターフH・沙<sup>G2</sup>)、**アリストテレス**(アメリカジョッキークラブC<sup>G2</sup>、菊花賞<sup>G1</sup>2着)、**イズジョーノセキ**(アイルランドトロフィー府中牝馬S<sup>G3</sup>)、**モリアーナ**(紫苑S<sup>G3</sup>)、他に重賞勝ち馬多数

### 母キャンディバローズ

北海道浦河町 富田牧場生産 中央22戦2勝(ファンタジーS<sup>G3</sup>、フィリーズレビュー<sup>G3</sup>3着)

クインズエルサ(20 牝父デクラレーションオブウォーUSA)中央12戦1勝(ききょうS<sup>O</sup>2着)

キャンディタフト(21 牝父カリフォルニアクロームUSA)中央5戦0勝、地方11戦2勝

**ヤンキーバローズ** 本馬(22 牡父エピファネイア)中央5戦2勝(ファルコンS<sup>G3</sup>、京王杯2歳S<sup>G3</sup>3着)獲得総賞金67,514,000円

アデルバローズ(23 牝父レイデオロ)⑧

(24 牝父モーリス)

(25 牡父ドレフォンUSA)

### 祖母アフレタータ

北海道浦河町 金成吉田牧場生産 中央4勝(かささぎ賞)、13年死亡

**ファインチョイス**(09 牝父アドマイヤムーン)中央4勝(函館2歳S<sup>G3</sup>、TVH杯、HTB杯、UHB賞<sup>O</sup>2着、ファンタジーS<sup>G3</sup>3着)

アットウィル(10 牡父アドマイヤムーン)中央4勝(クローバー賞<sup>O</sup>、彦根S、壬生特別、マーガレットS<sup>O</sup>3着、タンザナイトS<sup>O</sup>3着)

ブライトボイス(12 牡父スペシャルウィーク)中央2勝(二王子特別)、地方1勝

キャンディバローズ(13 前出)

## 抽選をめぐり抜け初の重賞勝利を掴む

クラシックのトライアルに続き、マイルの頂点を目指す3歳馬たちの戦いも本格的にスタート。前週の高松賞とは一転、「陽春」を思わせる晴天に恵まれたファルコンSは、1、2番人気を分けた京王杯2歳Sの覇者バンジャタワ、父エピファネイア、母ノームコアという良血馬シルバレーンをはじめ、ひと桁の単勝オッズを記録した馬が6頭を数え、上位拮抗の様相を呈した。そんな混戦ムードに断を下したのは3番人気のヤンキーバローズ。「10分の8」の抽選をクリアして出走にこぎつけた1勝馬が、3度目の挑戦で重賞初制覇を果たした。

マイルドは、緩みのないラップを刻んでレースを先導。バンジャタワは好位勢の直後に位置を取り、ヤンキーバローズの岩田望来騎手は少し折り合いに苦勞しながら凝縮した馬群の中団を進む。ダッシュがつかなかったシルバレーンは後方2、3番手で末脚を温存し、反撃のタイミングを窺った。

迎えた直線は逃げ粘るリリーフィードと、2番手からかわしに出たアーリントンロウが先頭を争う形勢に。坂の上りでアーリントンロウが振り切られると、残り200m地点からは好位を追走してきたモンドテラモレ、その外へ持ち出されたヤンキーバローズが強襲。道中は折り合いに手を焼きながら、馬群の内々で距離のロスなく立ち回った鞍上のリードに応え、鋭い決め手を繰り出したヤンキーバローズが横一線の接戦に競り勝った。

函館・芝1200mの新馬戦を勝ち上がった後は函館2歳S4着、京王杯2歳S3着と重賞で上位に入着、暮れの1勝クラス特別は逃げ切った勝ち馬を捉えきれず2着に敗れたものの、3カ月の休養を挟んで臨んだ始動戦で鮮やかに巻き返した。マイル未満のJRA重賞を勝ったエピファネイア産駒は本馬が初めてだが、母キャンディバローズは2015年のファンタジーSの勝ち馬。母系の影響が強く出ている現状からどんな上昇曲線を描くのか、今後の成長が興味深い。